



こどもニュース

2019年度

発行



2学期も“こどもニュース”のご愛読をよろしくお願いいたします。

日差しや影の落ち方は秋めいてまいりましたが、いつまででしょうか？残暑が続きます。皆様、体調を崩されませんようにお祈り申し上げます。

新学期を心待ちにしていた子ども達。一方少し戸惑い気味であった子どももありましたが楽しむことを見出し、動き始めています。また夏休み中の生活リズムからの回復がうまくいかず、体調が整わない子もいます。体温調節が出来難く熱中症にかかりやすい体になっています。遊びの途中で全員が水分補給を行うようにアナウンスを入れることにしました。今は特に子ども達の小さな変化を見落とさないように気を付けて参ります。

夏休みには私たちに研修会や研究会など、学びの機会をお与えくださり心からお礼申し上げます。今年度も皆、全国を駆け巡りました。全員で参加し学んだ会、それぞれに選び学んだ会があり2学期始業前に報告会を行い、学びの分かち合いを行いました。

一人一人が大変深い学びを頂き、2学期の保育にお返ししていきたいと奮起しております。今回のこどもニュースにて少しずつ皆様にもお知らせしています。

いくつかの研修では受講者としての学びと共に、企画側の学びもさせていただきました。若い保育者たちが貴重な休みを利用し、一生懸命に学ぶ姿に感動し、子ども達の成長に関わる重要で重責を伴う保育の将来に希望を与えられてきました。

ある会では数園の保育実践から学び合いました。ほとんどの園は年齢別のクラス編成、遊びも年齢ごとの事例でした。確かに充実した遊びの実践報告でありましたが、私たちの園ではその遊びはどのような展開や深まりがあるであろうかと想像してみました。異年齢での遊びは、幅広い年齢の子ども達が互に関係し合い、刺激は年上から年下へ伝わるだけではなく、年下の遊びを年上が取り入れたり入り混じったりしながら発展させることもあります。横に縦に斜めに、多様性に満ちた関係が多く産物を与えてくれるに違いありません。ワクワクしてきました。

「子ども達に流れる時間は、時計の時間ではない。ゆったりとたっぷりと遊ぶことが出来る時の流れを保障してあげたい。」ある講師が語られました。本当にその通りです。時間にも心にもゆったりとした流れがある2学期を願い、ご一緒に歩ませていただきたいと思います。

Noriko



学びの夏 研修に行ってきました!



山へ 海へ。プールや おじいちゃんおばあちゃんのおうちへ...
見せていただいている ねみやすみちょうからは 楽しい夏の思い出の様子が
目に浮かびます。

私たち 保育者も しぼしお休みといただき、日本各地へ
学びに行かせていただきました。

保育には、

実践 → 振り返り・検討 → 修正 → 実践

というくり返しが大切です。立ち止まって自分達の保育を振り返り、
学びあって 次の保育へいかす — この夏の学びを 2学期からの
保育に いかしたいと思います!!

第90回 私立教保連盟 夏期講習会

in 鹿児島

主題 ひびきあう - 神話の後の世界 -

「桜島」を目の前に...

何とひびきあうのか -

何にひびきあうのか -

保育に 唯一の答えはないけれど

「共に生きる、みんなでおきる」

そのことを ずっと考えさせられた = 研修
でした。



全国保者団体 合同研究集会

テーマ 「つばきろう 豊かな保育
子育てのために
ひろげよう。平和へのわがこ」

ジャーナリストの猪熊弘子さんや
弁護士の川口創さんのお話と
伺いました。

「ひとりひとりが輝く保育を
めざして」
簡単にはいけれど 社会の一員として

世の中で起っている

様々なことは 無関心ではいけない、
と思いました。



くみφ

保育理論から実技講座、そして園における防犯対策などたくさんの学びを頂きました。

長瀬美代子先生の「学童期・青年期を見通した幼児期の発達と生活・学び・あそび」では、それぞれの年齢の育ちを知り、それに見合ったあそびをたくさん経験することが、学童期に入ってからの子どもたちの学びの力の基礎になることを学びました。入学した子どもたちが新生活に戸惑うことは当然のこと。それを乗り越える力は幼児期の様々な経験から養われるそうです。低年齢児は心から楽しいと思える経験、年上児は仲間同士での達成感が味わえる経験など...それらのあそびが十分に出来る時間、空間、環境を保障できるように、改めて保育を見つめ直す良い機会となりました。

防犯対策では最近起きた子どもを取り巻く事件から園でできる防犯対策を学びました。そこでは子どもの安全を守ることはもちろんのこと、子どもたち自身を「自分の身を守る子にする」ことも大切なことなのです。1年生になったら安全基礎体力(逃げる、断る、告げる、判断する)を身につけましょう。遊びの中で自然に身につくものもあります。子どもたちにとってあそびは学びでもあり、生きる力になるんだとつくづく感じました。

実技講座ではにじぐみさんの大好きなタオルあそびの新バージョンや、私にとって趣味のひとつでもあるパネルシアターの新ネタも仕入れてきました！その他、汗だくになりながら楽しく運動遊びやふれあい遊びなども沢山教えていただきました。多くの学びの機会を頂いたことに感謝です。

2学期からいろんな場面で生かしてゆきたいと思っています!!

Akie★



金城学院大学ヒューストン記念礼拝堂に、キリスト教幼稚園・保育園の先生たちが集まって研修会が行われました。印象に残ったことを紹介したいと思います！

<三谷宏治先生>

新しいことに挑む姿勢

が創造力を豊かに!!



とにかくほめて♡

試行錯誤力 = 発想力 × 決める力 × 生きる力 (変化を楽しむ心)

あたり前常識にとらわれない面白い発想がぞき。

失敗も大事な経験!

自分で決められない子どもたち。なぜ決められない?

決める必要がない

決めるのが怖い

決め方を知らない

決める必要を作る!

- ・親が決めない
- ・少ないお金で着てもらう

パソコンがよい経験に!?

決める力を高めるために...

決めるのを楽しくする!

- ・人と連うをほめる
- ・イベント化する

子どもが家族旅行を計画してみる!?

決め方を練習させる!

- ・お手伝い
- ・プロセスを問う

テストで間違えたところを次回に活かすため、自分で解決案を考える。

<外村妃彩枝先生>

信頼し信頼される関係づくりのために → 心・言葉・行動を変えよう!!

↓大切なことは...

心が伝わるコミュニケーション能力

自分を知り、相手を理解することを心掛けようと思いました。



(まお)

ひかりのくに研修会「子どもの心を育む保育の視点」に行ってきました。

今、「折れないココロを持つ、情緒が安定した幸せな大人」という人間像が求められています。では、そのための土台となるココロを育むためには、何が必要なのか……それが研修の主題でした。

ココロの成長には、幼い頃に周りとのどのような関わりをしてきたかがカギとなってきます。子ども同士、親と子、保育者と子……。その関わりによって生まれる日々の経験の質によってココロは成長していきます。

よく英語圏では、失敗をした時に“GOOD JOB!!”と言われるそうです。失敗したのに何でGOODなの??と思われるかもしれません。これは、失敗を失敗として捉えるのではなく、“いい経験をしたね。その経験を次に活かしていこう”と背中を押しているのだとか。

日本人は失敗を恐れやすい傾向にあります。けれど、「失敗しない人」ではなく、うまくいかない時失敗したときに、考えたり工夫したり他者に助けを求めたり……その自分の置かれている状況をどのようにして変えていくか、変えられる人間であるかが大切なのではないでしょうか。そしてこれこそが、逆境から立ち直る、折れないココロを持っている人なのではないでしょうか。

2学期は日々の遊びも深まり、さらに行事も多くある季節。これまでとは違った挑戦や経験がいっぱいです。“GOOD JOB!!”と言える大人でありたいですね。(ゆか)

全国保育団体 合同研究集会で平松知子先生・近藤直子先生から興味深いお話を聞いてきました。

『どれくらい笑っていますか?』

幸福感第1位のフィジーでは、子ども以上に大人たちの笑顔が印象的だそうです。その笑顔はどこから生まれてくるのでしょうか。

国民性もあるかもしれませんが、そこから学ぶことがあります。フィジーでは、“お互いさま”という感覚を持って生活している様子が多く見られるそうです。お互いさまの感覚から、大人たちがそれぞれにSOSを出せる存在であり、そこで育つ子どもたちにとってもSOSを出せる存在が周りにたくさん居ることになります。それが子どもにとっても、大人にとっても安心となるのでしょうか。

大人が笑って生きること、簡単そうで案外難しい。しかし子育てにおいて大切なことではないでしょうか?

『一日3回 家族みんなが甘えん坊』

甘えん坊と聞くと子どものことのように思いがちです。しかし大人にも甘えたいと思う時ありますよね。そこで、提案! 家族みんなが甘えん坊する時を作ってみましょう。ギュッと抱きしめ合うことで互いの思いが言葉ではなく、伝わるのです。そこで訳もなく安心したり、「もうひと頑張りするか!」と新たな力を得たりすること間違いなし。試してみませんか?





ソニー教育財団主催の



☆全国幼児教育特別研修会に行ってきました！！☆

「科学する心」が育まれる子どもの姿、「幼児期の主体的・対話的で深い学び」が育まれる子どもの姿をテーマとした事例研究を通して“科学する心をどう育てるか”について学ぶことができました。

昨年ぶどうぐみで行われていたスケート遊びを事例に挙げ、他園の先生達から「実際に子ども達がスケートをやったことがあるから、本物のようなスケート遊びができたんですね。スケート王国である名古屋ならではの遊びですね」「子ども達だけでなくおうちの人もみんなで楽しめたことは素晴らしいことですね」など嬉しい意見をたくさんもらいました。また講師の先生からの講演を聞き、失敗することは子ども達にとってプラスの経験だということを知りました。試行錯誤しながらスケート靴を作った経験も、子ども達にとって深い学びだったのだと改めて感じました。

これからも様々な遊びを通して、子ども達が科学する心が育まれるように環境作りや援助をしていきたいと思ひます。

☆『なにをしたの会』『なにしよう会』☆



子どもたちが主体的・対話的に遊ぶことのできる環境とは・・・という観点から、様々な園の保育実践を学びました。早速、2学期から保育に取り入れた実践は、『なにしよう会』『なにをしたの会』です。子どもたちは、ひとりひとり自分で考え、園庭や遊戯室、各クラスの保育室など、それぞれ思い思いの場所で1日を過ごします。園内を自由に行き来はできますが、ひとつの遊びに夢中になっていると、他の場所でどのような遊びが展開されているのか知るチャンスは少なくなります。そこで、帰りのあつまりの時間に、「今日は、何をして遊んだの?」と振り返ったり、「明日は何をして遊びたい?」と次への見通しを持つ機会をつくることにしました。子どもたちが遊びの面白さを伝えてくれることで、今まで未経験だった子どもたちが「ぼくもやってみようかな」と思えたり、新しいメンバーが遊びに加わることで、遊びがさらに広がるきっかけになったり。明日への見通しを持ち、遊びに必要なものを自分たちで準備する取り組みも少しずつしています。遊びの「見える化」を工夫し、心がワクワクするようなプロセスを大切にしていきたいと思ひます♡ (Aki & Rina)

